

## 1 令和7年度の重点

<p>生徒一人一人の資質・能力を磨き、人間性や寛容性を広げることで「自立と共生」の精神を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT機器の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの効率化を推進</li> <li>○ 生徒一人一人にとっての安全・安心な集団づくりと教育相談体制の整備</li> <li>○ 一人一人の進路実現に向けた適切な情報収集、生徒、保護者への十分な情報提供</li> </ul>
--

## 2 学校評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>① ICT機器の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの効率化を推進</p> <p>② 基礎的・基本的知識が身につく授業づくりと一人一人の学力に応じた課題の提示</p> <p>③ 生徒の学習意欲を喚起させ、見通しを持って学習に取り組む態度が身につく評価の工夫</p> <p>【指標】「PC・タブレットなどのICT機器を活用して、生徒個々に合った学習を指導できていると思いますか」の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する教員を100%にする</p> <p>【結果】 100% 【自己評価結果】 A</p>	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 A</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 A</p> <p>【評価者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習環境改善のため、教育委員会として努力していきます。</li> <li>・生徒1人1人の学びに大きな差異があるのをふまえて成果をあげていると思います。</li> <li>・先生と生徒の回答の乖離が気になります。</li> <li>・ICT機器を使うこと事態を目的化しないことも大切。</li> <li>・協働的な学びの評価指標も必要かと思います。</li> </ul>
改善方策	<p>・前年度85.7%に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答が今年度100%になった。次年度以降もICT機器を利用した実践例を校内研修に取り入れていき、生徒の個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実によって主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に繋がられるように努める。</p>	
生徒指導	<p>① 生徒の自己理解を深める指導・支援及び道徳教育の充実</p> <p>② 指導・支援の重点項目、方法、手順の共通理解と全教職員が連携した組織的対応</p> <p>③ 生徒の自己管理や環境整備について外部機関と連携した指導・支援</p> <p>【指標】いじめアンケートにおいて、a.「いじめはどんな理由があっても絶対に許されない」と回答する生徒を100%とするともに、b.「嫌な思いをしたとき誰にも相談しない」と回答する生徒を0名にする。</p> <p>【結果】 a. 98.3% b. 8.1% 【自己評価結果】 B</p>	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 A</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 A</p> <p>【評価者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの芽の段階で解決できる環境づくり、取組をされていると思います。</li> <li>・教育相談の系統的な取組を外部にアピールしても良い。</li> <li>・いじめに対する見極めが大事だと思います。</li> <li>・学校生活全般において、教育カウンセリングを行うなど教職員の意識改革や資質向上にも期待します。</li> <li>・教員がオープンであることや傾聴する態度を示すことは必要かと思います。</li> </ul>
改善方策	<p>・「いじめは許されない」という意識の醸成を、ホームルームや集会等で定期的に学校いじめ防止基本方針に触れる機会を増やすことで継続するとともに、いじめの事例を取り上げる機会も増やし、生徒の言動に繋がられるよう努める。</p>	
進路指導	<p>① 3年間を見通した系統的な計画に基づく教職員の連携した指導・支援</p> <p>② 自己実現や進路実現に向けて判断力が身につく指導・支援の工夫</p> <p>③ 一人一人の進路実現に向けた適切な情報収集、生徒、保護者等への十分な情報提供</p> <p>【指標】北海道高等学校「学習状況調査」において、「高校入学前に比べ、高校卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった」の項目に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答する生徒を100%にする。</p> <p>【結果】 87.1% 【自己評価結果】 B</p>	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 A</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 B</p> <p>【評価者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の発達のスピードの違いを想定し、日常的な取組の成果がでていると思います。</li> <li>・保護者としても助かっています。</li> <li>・生徒、教員、保護者等との情報交換や連携は大事。</li> <li>・社会に出るリアリティを持たせる場面が必要かと思う。</li> <li>・進路指導において、ガイダンスとカウンセリングの専門的知識が求められていると思います。</li> </ul>
改善方策	<p>・「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた生徒は全員1学年であったことから、1学年での進路行事（インターンシップ）や授業（調べ学習等）、教員との面談等での不足があったと考えられる。進路についてより真剣に考える事が難しい生徒に対して、個別に教員との面談等で考える機会を設け、一人ひとりに視点を当てたきめ細やかな進路指導を行うことで改善を図る。また、1学年から自分事として進路に向き合えるよう、次年度の進路指導内容の改善を行っていく。</p>	
公表方法	HP	